

C-33 水平断面計測によるウェストパーツ量と体型について

文化女大家政 ○三吉満智子 土井真知子

目的 ウェスト部のパーツ量の配分は、それが適切でない場合、衣服の着装の安定性をそこね、美的効果も運動機能効果も減少させるという重要な問題を含んでいる。本研究では、人体の水平断面を計測し水平体型図を作成し、それによってパーツ量の測定を行ない、体型との関係を検討し、被服パターン製作法の理論化を試みた。

方法 第20・23回本学会で、水平体型及び偏平率による体型分類について報告したのと同様の方法で、上半身・下半身の水平体型図に、ウェストライン(W.L)水平断面の曲率中心点と仮定した位置から体表の方向に15°の分割線を入れ、その区間ごとの外包囲とW.L囲との差をその部位のパーツ量として測定した。体型因子としては、偏平率(左半径/右半径)、ウェスト部の上・下半身に対する前後方向への偏り、及び総パーツ量(上・下半身外包囲-W.L囲)等を取り上げ、パーツ量の配分状態との相関係数を求めた。

結果 人体の各面ごとにまとめたパーツ量は右表の通りである。これを体型因子との関係とみると、全般にウェスト部の前後方向の偏りとパーツ量との相関が高い。また部位によっては、W.L、B.L等の偏平率の影響も受けている。特に上半身後斜側面のパーツ量は、分量的には上・下半身を通じて最も多いにもかかわらず、体型因子の影響をあまり受けないという特徴をもっている。

		前面	前斜側面	側面	後斜側面	後面
上半身	平均値(cm)	0.28	1.98	1.82	4.97	2.47
	標準偏差	0.30	0.92	0.85	1.02	0.75
下半身	平均値(cm)	1.36	3.87	4.06	3.90	1.20
	標準偏差	0.58	0.73	0.92	0.95	0.36